

第52回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

第49回秋季関西学生ソフトボールリーグがやっと終了しました

この夏ほど学生たちと宿泊をともにしたことはありません。

7/4 (火) ~7/12 (水) 九州遠征 (第49回西日本大学ソフトボール選手権大会等)
9泊10日 (フェリー内2泊含む)

8/5 (土) ~8/10 (木) 韓国遠征 (第13回順天市長旗国際親善女子ソフトボール大会)
5泊6日

8/21 (日) ~8/24 (木) 白馬カップ (長野県白馬村主催) 3泊4日

8/28 (日) ~9/3 (日) 岡山遠征・広島遠征 (美作カップ・第52回全日本大学ソフトボール選手権大会) 6泊7日

本当に長い遠征でした。何度となくソフトボール通信を出さなければと思いつつ、秋季リーグが終わるまでとの思いで延び延びに。

今年の目標を「2年連続西カレ・インカレ出場、そして1勝」で、スタートをきった4月。今年卒業した2期生の9名が何とか踏ん張って2017年度の春季リーグは1部からのスタートでしたが、最もレベルが高いリーグである関西リーグ、並大抵では勝てません。1部リーグでたったの1勝 (立命館大学に勝利) で2部リーグへ。1部から落ちた大阪青山大学と立命館大学・2部に1位関西大学と2位の大阪体育大学の4チームでインカレの1枠を争うことに。それぞれにライセンスをとり、管理栄養士、小・幼の教員、保育士、看護師を目指す学生たちです。力でいえば立命館大学ですが、関西大学との試合よもやの逆転負け。本大学と大阪体育大学は本大学が勝利。インカレに後一つといったゲーム、関西大学との対戦、当然力は相手が上でしたが学生たちの頑張りやサインがことごとく的中、何とかインカレ出場の権利をつかみました。関西女子リーグは全国優勝の経験もある園田学園女子大学を筆頭に全国的にみても強豪チームの集まりです。他のブロックでは考えられない熾烈な争いが続きます。また、選手の獲得も大学によって様々な特待制度や経済的特待制度は

なくとも、インターハイ又はインターハイのベスト4位に入ったチームの選手なら受験可能な制度も。同志社・立命館・関西大学等々、関西での有名私学はそのような制度の中、大学のブランド名で数多くの学生たちが受験を希望します。今や一般入試も同じような傾向があるのではないのでしょうか。ソフトボールを、大学まで行って続けたいと思う学生たちを集めるのは至難の技。そんな状況の中で、本大学に入学してきたソフトボール部の学生たちはソフトボール選手として決してエリートではありません。むしろ、無名の高等学校や有名私立高等学校から来た学生たちもイレギュラーの選手ばかりです。選手の集め方にも賛否両論があります。“もっと実力のある選手を”との思いもありますが、すべての選択肢は一人ひとりの学生たちにあります。50名を越える部員を抱える大学もありますが、そこには最低2人の監督・コーチがおりA・Bに分かれての遠征も常識です。また、関西だけでなく、全国の女子ソフトボールチームは、早く強くなるために実業団を引退したプレーヤーを監督にするチームも多くなりました。

様々な考え方があります。しかし、本大学は建学の精神にのっとり、“教育としてのソフトボール”を目指しています。ソフトボールを通じて、社会的貢献の出来る人間力、弱者の視点を忘れない、人間としての成長をしてほしいと考えています。勝利第一主義でない教育としてのソフトボールを追求した中で、必ずや道が拓けると信じています。

インカレ、名門早稲田大学とのゲーム、3対0で負けました。日頃あたることのない名門大学とゲームが出来たことは大きな収穫でした。ソフトボール競技、3対0と聞くと大差だと考えるのがどうか、エースピッチャー（アンダー19の日本代表エース）を打てなかったことが大きな敗因でした。

4回生が11月3日秋季リーグをもって引退しました

本来は10月9日(祭)に終わる予定の秋季リーグ、雨天のため順延が続き約1か月延び11月3日(祭)に最終戦が。1次予選リーグで1勝3敗となり、同じ1勝3敗の武庫川女子大学との直接対決で(同じ勝率の場合、直接対決したチームでの勝者が上位に)大阪青山が負けているので2次部別リーグに回ることに。同じ1勝3敗で失点合計も大阪青山が少ないにもかかわらず、大会の取り決め事項で2次の部別リーグへ。しかも、9月30日(土)の神戸親和女子大学戦、勝ちか引き分けなら1部に残留ができたものの、5回2死に逆転され引き分けにも持ち込めず敗退。

10月1日(日)十分に立ち直りのできていない中で、1試合目天理大学戦、前回の負けを引きずり天理大学に元気なく1対3で負け、このままズルズルといくのではとの雰囲気がある…。しかも4回生が1試合終了後1名を除いて再試のため、大学に戻り1~3回生でゲームを。これが今回のすべての勝因だったのかもしれない。4回生のいない中、1~3回生本当によく頑張りました。この勝利がなければ2部に落ちていました。その後10月9日(祭)太成学院大学に9対1で5回コールドで勝利。龍谷大学戦は、1回裏3点を先取されたもの

の最後7回表に1点を取り6対5で勝利。3勝1敗に持ち込みました。その後最後の奈良学園奈良文化女子短期大学部とのゲームを残すだけとなりましたが、土・日が雨天続き、ゲームができたのが11月3日(祭)約1か月遅れとなりました。

この間私自身、胃も痛く夜も充分に眠れない日々、学生たちのモチベーションをどう持続させるのかを考えながらの指導が続きました。それは、直接対決で天理大学に負けている大阪青山は、1試合目で天理大学が大阪体育大学に勝つと3勝2敗になり、3試合目の奈良学園大学奈良文化女子短期大学部と大阪青山戦で大阪青山が負ければ3勝2敗となり、直接対決で天理大学に負けている大阪青山は2部に落ちることが決定します。大阪体育大学に勝ってほしいと他力本願に頼るものの、何とか自分たちの力で1部残留を決めたいと思っていました。当日は兵庫教育大学へ。学生たちには少しでもゆっくりと思い、8時に箕面駅を出発。私は自宅を7時に出て会場へ、3連休の初日大渋滞の中2時間15分かけて会場へ。1試合目の天理大学と大阪体育大学戦を観戦。ここまで0勝3敗だった大阪体育大学が絶対に勝つんだとの思いで臨んだゲーム、3対0で体大が勝利。これで大阪青山の2部落ちはなくなりましたが、他力本願で残ることはできません。

3試合目の奈良学園大学奈良文化女子短期大学部戦。ピッチャーの4名を中尾(4年)ー友藤(4年)ー沖島(3年)ー川添(3年)ー中尾(4年)という大阪青山の勝利の継投方式でつなぎ、味方のエラーを1点に抑え、5回表、1死1・2塁より2番坂上の見事なバントエンドランで2死2・3塁に。3番長井(みなみ)、看護学科で実習が続き大変な日々だと想像しますがその打球の速さで3塁強襲のヒットで2人がかえり、2点をとりました。

ゲームには様々なドラマがあります。4年生6人のドラマを全て伝えることはできませんが主将としてチームをまとめ守備の要だった内山さん。エースとしてチームを引っ張り続けた中尾さん。そのエースを支え冷静なピッチングでチームを支えた友藤さん。日頃の練習でもノッカーとして頑張りその長打はチーム1ですが、打てる場面でバントのサインが出て嫌な顔一つせず絶妙なバントをしてくれた藤本さん。あまりに真面目すぎて不器用ですが、練習中や試合中ベンチ内でも一番大きな声を出し大学生らしい姿勢の中で頑張り通した福島さん。2年より左バッターに変え、たった3年間ですが左に変えたことでバントの成功率も上がり足の速さをいかんなく発揮した宮崎さん。(もっと早く左バッターに変えてあげればよかったと後悔しました)6名の4回生、一人ひとりが個性的で私自身の指導が充分に入っていたのかどうかわかりませんが、1～3回生に負の遺産を残すことなく、素晴らしい成績を残して引退しました。監督として今はただただ感謝し、これからの人生に幸多かれと祈るばかりです。

部活動の今後は

11月3日(祭)秋季リーグの最終戦が終わり、閉会式を19時前に終え、真っ暗な中それぞれに帰宅(保護者が応援に来られていた学生は保護者の車で帰宅)バスで箕面へ帰る学生たちに千里山バスの運転手さんが「お腹が空いたやろう」と赤松SAでコロッケを買って下さいました。(運転手さんのお名前を誰も覚えていませんが、本当にありがとうございました)私はいつも通り自分の車で荷物を運搬して帰宅。

11月4日(土)は、1・2年生大会でした。合わせて8名しかいない為、3回生を1人ずつ出して試合に望みましたが、エリート軍団の同志社大学に4対1で負けました。この時期他大学と比較すると、その違いがよく分かりますがこの現実を受け止め、一步步努力精進しやる以外ありません。(1年のピッチャー片山がよく投げました。負けましたが大きな収穫でした)

11月5日(日)は大学で4回生がいない初めての練習でした。事情があり全員でスタートを切ることができませんでしたが、来年度春季リーグ1部スタートの切符をもぎ取った大阪青山です。3回生が中心になって新しいチームづくりに取り組みますが、また1からのスタートです。秋季大会終了前後で月曜日を休日にしてはいますが、土・日は全く休みがありません。今日(11月7日)の新聞に中・高等学校の部活動は“ブラック部活動”との記事が。長時間労働の為、生命を落としたり心の病になる教員も多く、また、部活動の強制が生徒の不登校の一因になっているとも考えられています。その反面、部活動の指導時間の長さに関係なく、部活動を指導する教員のストレスの大半をしめているのは指導できる知識や技術もないことが大きな原因とも。

私は大学にお世話になる前、中学校の教員でした。着任した年より“〇〇部が顧問いないので持ってください”と有無を言わさない中での部活動顧問が指導の始まり、運動部において、持ったことない部をあげることのほうが簡単。ほとんどとっていいほどの部活動を担当し、2~3つの掛け持ちもこなしてきました。そんな時代を過ごした私にはこんな時代が来るとはとの思いです。中・高等学校の部活動の現状が決していいとは思いませんが、お互いの立場や働き方を尊重して、時代のニーズに合わせた部活動の在り方を、本気になって考える時期だと痛感します。私自身は社会が進歩し大きく変わろうとも変わってはいけないものが教育現場にあるように思っています。

大学の突出した部活動は、今後どのような方向に向かっていくのでしょうか。様々なニュースポーツが出来る中で、集团的スポーツは、人と人を繋ぎ感動を与える原点へと思う今日この頃です。

今後の予定

朝の清掃活動 今週より金曜日から木曜日に変更(4回生が木曜日にしか授業がないため)

- 11月12日(日) 環太平洋大学へ(岡山)練習試合
11月18日(土) 大学創立50周年記念行事 北摂練習
11月19日(日) 未定(練習試合)
11月25日(土) 同志社大学と練習試合 於 北摂グラウンド
11月26日(日) 立命館大学と練習試合 於 北摂グラウンド
12月2日(土) 午前中練習 午後箕面 高村薫講演会 人権学習に取り組みます
12月3日(日) 未定(練習試合)
12月9日(土) 第21回ものすごい会 中学・高等学校交流試合お手伝い
12月10日(日) 武庫川女子大学と練習試合←中学・高等学校に見せるための試合
どちらも奈良県にて

その他について

◎リーグ終了後、月曜日を休日としています。大学生活を楽しんでいるようで、私服姿に私も慣れてきました。

◎強化指定クラブの役割とは何かを常々考えています。今回のインカレ・西カレその他海外遠征も含めて、大学には本当に多くのご支援・御尽力を頂戴しています。ソフトボール部としてできることは何かを考え、1名でも多くの学生たちが大阪青山大学に来てほしいと願っています。2年連続でインカレ・西カレに出場。中学校・高等学校の先生方、私が今まで教えてきた多くの子ども達の保護者や現役の保護者、私の教え子たち、そして大阪青山大学ソフトボール部の1・2期生等々、本当に多くの皆様方から暖かい声援と、カンパを頂戴致しました。大学側のご支援と同時にこのカンパが学生達の負担を最小限にとどめ、数多くの遠征ができたこと、この紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。今後とも皆様方のご厚情を忘れることなく、素晴らしい環境の中でソフトボールができることに感謝し、学生共々決して初心を忘れることなく、日々文武両道を目指し、努力精進していきますので、御指導・御尽力のほどよろしくお願い申し上げます。

10月1日(日) VS 大阪体育大学

於 四天王寺大学

	1	2	3	4	5	6	7	計
青 山	2	0	0	0	0	1	0	3
体 大	0	0	0	0	0	1	1	2

10月9日(祭) VS 太成学院大学 (5回コールド)

於 四天王寺大学

	1	2	3	4	5	6	7	計
青 山	1	0	8	0	0	×	×	9
太 成	1	0	0	0	0	×	×	1

10月9日(祭) VS 龍谷大学

於 四天王寺大学

	1	2	3	4	5	6	7	計
青 山	0	1	0	2	2	0	1	6
龍 谷	3	0	1	0	0	1	0	5

11月3日(祭) VS 奈良文化大学奈良女子短期大学部

於 兵庫教育大学

	1	2	3	4	5	6	7	計
青 山	0	1	0	1	2	0	0	4
文 短	0	1	0	0	0	0	0	1

新人戦

11月4日(土) VS 同志社大学

於 兵庫教育大学

	1	2	3	4	5	6	7	計
青 山	1	0	0	0	0	0	0	1
同志社	0	1	0	1	0	2	×	4

第 49 回西日本大学女子ソフトボール選手権大会

7 月 9 日(日) VS 福岡大学 於 宮崎県 清武総合運動公園

	1	2	3	4	5	6	7	計
青 山	0	1	0	0	0	0	0	1
福 岡	0	0	0	0	0	0	0	0

7 月 10 日(月) VS 大阪国際大学 於 宮崎県 清武総合運動公園

	1	2	3	4	5	6	7	計
青 山	0	0	0	0	0	0	0	0
国 際	0	0	0	0	0	5	×	5

第 52 回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

9 月 2 日(土) VS 早稲田大学 於 広島県 呉市

	1	2	3	4	5	6	7	計
青 山	0	0	0	0	0	0	0	0
早稲田	1	2	0	0	0	0	×	3

引退した 4 回生の進路について

1 名⇒ソフトボール実業団二部リーグ「ペヤング」へ

1 名⇒大阪府教員採用試験合格

1 名⇒YMC A 幼稚園教諭合格

1 名⇒施設職員合格

2 名⇒大阪府教員採用試験不合格、講師登録(来年再チャレンジをして頑張ります)

教職員の皆様方には大変お世話になりました。大学で学んだことを心に刻み、頑張ってくれと信じています。本当にありがとうございました。今後ともご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。